

文化社会課程・生産科学課程アンケート報告

Report on the questionnaire
about PCS and PIS of Wakayama University

和歌山大学教育学部

Faculty of Education

Wakayama University

藤田利光¹, 大倉秀介²

Toshimitsu FUJITA, Hidesuke OHKURA

植田千晶³, 桶矢成智⁴

Chiaki UEDA, Seichi OKEYA

The results of the questionnaire which was administered to the students in January 1993 is presented. It surveyed how they feel about their academic situation, present curriculum, and their future plans while taking the Programs for Culture and Society (PCS) and the Programs for Industrial Science (PIS) in the Faculty of Education, Wakayama University. Since these educational programs started in 1989, it became possible in early 1993 to survey the full range of students (from freshmen to seniors) taking these programs. The results of the questionnaire are very suggestive for the future improvement of these educational programs.

キーワード：新課程，ゼロ免課程，大学教育，カリキュラム

1. 始めに

平成4年の新年を迎え、平成3・4年度文化社会課程・生産科学課程運営委員会の2年の任期も残すところあと3カ月となっていた。教員免許状の取得を卒業要件としない「新課程」として、文化社会課程及び生産科学課程（教務的には、これらをあわせて「B課程」と呼び、これに対して、従来の教員養成課程を「A課程」と呼んでいる。）が発足した平成元年から数えると、ようやく4年になろうとしていた。振り返ってみると、学部整備委員会が新課程の設置計画を立案し、予算要求を行っていた2年間、ケンケンガクガクの論議と文部省折衝、設置計画案の再検討という繰り返しの結果、やっと日の目を見た課程であるが、いざ実際に運営を行ってみると、計画当初の期待や予想と現実とのギャップに戸

平成3・4年度文化社会課程・生産科学課程運営委員会

1 運営委員長

2 国際文化コース小委員長

3 生涯教育コース小委員長

4 生産科学課程小委員長

惑うこともばしばであった。学生のB課程に対する認識にもそれがありありと見られた。初年度の応募倍率や合格最低点には、受験生の大きな期待が反映されており、そのため逆に、学年進行で整備を行っていたため当初ほとんど独自のスタッフが揃っていなかったことや、まだ十分に揃っていなかった授業科目に対する不満を、専攻のための説明会で学生たちからぶつけられ、たじたじとしたこともあった。かつての学園紛争時の「団交」ほどではなかったが、それを思いながらも、運営委員会は真剣に対応した。次の年度は、入学者選抜時に多数の入学辞退者を出したこと、1、2年次の修得単位数不足のため進級制度に引っかかって、専攻決定が出来ず留年する学生が多かったこと等が印象に残った。年度毎に学生の傾向が異なるのは、B課程に始まったことではないが、学生の持つ雰囲気、従来の教員養成課程、A課程とは確かに違っているという感想を、多くの教官から聞いた。

平成4年度は、大学においても学部においても、カリキュラムの見直しが大きな課題となり、揺れた。大学設置基準の大綱化によって従来の一般教育の縛りがなくなり、専門教育とあわせて大学・学部の教育体系を見直すよう要請されたわけである。和歌山大学でも、平成3年7月に一般教育等検討委員会が発足し、全学レベルでのカリキュラムの枠組みを検討していた。文化社会課程・生産科学課程運営委員会（上のような経緯で、これを「新課程運営委員会」と呼ぶこともある。）は、早くも平成4年1月22日に、新課程としても、全学レベルでの検討と並行して、カリキュラムの見直しと改善を行う必要があるという問題提起を行っている。その後4月16日に、教育学部教授会で「カリキュラム等の検討のための連絡協議会」の発足が承認され、新課程運営委員会からも3名の委員がその検討に参加するようになった。「カリキュラム等の検討のための連絡協議会」における検討と並行して、新課程運営委員会でも、独自にカリキュラムの検討を重ねた。新課程運営委員会各小委員会での検討や、各教室に対するアンケート調査等を経て、平成4年10月26日には「新課程のカリキュラム（案）」を作成し、それを基礎として到達した結論を、報告「新課程の履修単位数について」としてまとめ、「カリキュラム等の検討のための連絡協議会」に示した。

新課程のカリキュラムにはまだまだ検討すべき多くの課題が残されていたが、運営委員会としては、とりあえずそれまでの成果を、「新課程のカリキュラム（案）」として次期運営委員会に引き継ぎ、今後さらに練り上げてもらうよう、その手にゆだねることにした。そして、運営委員会の最後の仕事として、発足以来4年、学生の入学から卒業・就職という最初の1サイクルに達し、初年度入学生が3月に卒業しようとするこの時期に当たり、B課程全在生を対象とするアンケート調査を行い、新課程の自己評価と、今後の改革のための基礎資料とすることが有益ではなかろうかということになった。

アンケートは平成5年1月27日から2月15日の間に集められ、各小委員会段階で集約を行った。年度末の行事が重なって、なかなか小委員長会議を召集して全体的な集約を行ったり、集約の調整をする暇もないまま、次年度委員会との交代時期を迎えてしまい、この集約の仕事だけを旧年度の新課程運営委員長及び各小委員長が持ち越して行うことにして、他の全ての業務を新運営委員会に引き継いだ。

年度が改まり、さらに1年以上たった今、やっとアンケートの集約を行い、ここに公表することになった。この間、多くの方から早く公表してほしいという要請を受けながら、このように遅れてしまったが、これはひとえに旧運営委員長たる藤田の怠惰のなせる業と

して、その責任に帰されるべきもので、この報告の執筆者の一人として、学部先生方や旧新課程運営委員会の委員の方々に、深く遺憾の意を表するものである。

教育学部のカリキュラムの検討は、平成6、7年度も継続して行われており、更に、最近急速な展開をしている理工系新学部設置計画と関連して、今後、教育学部のリストラが急速に進むような状況である。すっかり遅くなってしまったが、このアンケートの結果が、教育学部の将来計画その他の様々な検討において、役立つことを期待している。

この報告では、次節以下、2. でアンケートの質問事項と質問の意図について述べ、3. でアンケートの結果の特徴的な点について述べ、最後に4. でアンケートに現れた問題点を整理する。付表として質問事項及び集計結果を載せる。

2. アンケートの質問事項

この節では、質問項目と、各質問項目設定の際に意図したことについて簡単に述べる。アンケートの質問事項の詳細については付表を参照されたい。

〔A〕 志望理由

ここでは、B課程の学生が志願時に抱いていたB課程に対するイメージ、志望・関心、あるいは併願大学・学部等を訊ねることによって、大学進学動機という点で、B課程の学生とA課程（教員養成課程）の学生はどこが異なり、あるいは共通するかを知るため設問をした。入学後の現在、学生が抱えている勉学に対する意欲についても訊ねている。

〔B〕 カリキュラム

ここでは、学生の側から見て、B課程のカリキュラがどの様に受け取られているかという事を訊ねている。新課程計画当初カリキュラムに盛り込んだ意図が、学生にどこまで伝わっているのか、また、意図通りに機能しているかを知るため設問した。

〔C〕 専攻指導

現在行っている専攻指導が適切であるかどうかを知るために設定した項目である。本学部の場合、課程、またはコース別に募集する。専攻の決定は、生産科学課程の場合は、1年次の終わりに専攻希望調査を行い、2年次始めに専攻を決定するが、文化社会課程の場合は、教員養成課程と同様、2年次始めに専攻希望調査を行い、それにもとづいて2年次後期までに専攻を決定している。専攻決定までに課程・コース単位で様々な指導を行っているが、それが十分に機能しているかどうかを訊ねている。

〔D〕 勉学条件

ここでは、B課程の学生が現在勉学条件に対してどのような不満を感じているかを知り、その改善のために役立てることを目的に設問した。

〔E〕 大学進学目的、将来の進路

この設問は、大学進学目的を一般的に質問し、将来の進路に関する考え方を問うもの

である。大学進学を目的を「〔A〕志望理由」に含めなかったのは、学生の一般的な意識を知りたかったことと、その意識に照らしてB課程がどのように評価されているかを知りたかったからである。また、これらの質問に対する回答が、学年でどのように異なってくるかも興味のあるところである。

〔F〕その他、要望事項等

質問項目以外について、自由に意見や要望を書ける欄を用意した。

3. アンケートの結果

この節では、アンケートの集計結果にみられる特徴について述べる。具体的な集計データは付表を参照されたい。

〔A〕志望理由

受験時にB課程をどのように理解して受験したかという質問には、「イ. 文学部, 理学部, 工学部のような専門分野の教育をする。」, 及び「ハ. 教員養成課程に比べて多少専門的な教育をする。」を選択した者が圧倒的に多い。文化社会課程では、両コースともハが多く、傾向としては、現実的に教員養成課程との関連でB課程を理解しているものと考えられる。これに対して生産科学課程の場合には、逆にイの方が多く、文化社会課程の学生に比べて、専門的な教育を受けることへの期待がより強いように思われる。

何を学ぶことを目的にB課程に入学したかという質問に対して、文化社会課程国際文化コースの場合、「比較文化」とする者が最も多く、それに「国際関係・政治」とする者が続いている。「言語文化」を「言語と文化」というように理解するなど、用語に関する誤解も多少あるように見受けられるが、印象としては、「文化」、「教養」という極めて漠然とした広範囲なものを指して回答した者が多いように思われる。生涯教育コースの場合には、「心理学」とした者が半数程度と多く、それに「運動（スポーツ）」が続き、他は広範囲にコースの全領域にわたっている。生産科学課程の場合には「情報」とする者が多く、それに「理系」とする者が続いている。「工学系」とする者は予想外に少ない。コースとして「情報科学コース」があるので、「情報」に対する期待は大きいと考えられるが、他は、専攻名などから、工学系というよりは理学系と理解されているのであろう。また、時代の傾向を反映して「環境」分野への期待も目立っている。

本学部B課程以外の受験大学、学部に関して、文化社会課程国際文化コースの場合、10名以上が併願している大学を多い順に挙げると、関西大学、立命館大学、大阪市立大学、大阪府立大学、大阪外国語大学、大阪女子大学となる。志望順位では、和歌山大学を第1志望としている者は極めて少なく、多くの者は受験の結果やむを得ず第2志望以下に入学したということか。また、学部、学科では、文学部が圧倒的に多く、次いで経済学部、外国語学部が続く。教員養成を目的としている学部・課程は、以上に比べるとそれほど多いとはいえない。受験学部が一貫している者もいれば、非常にバラバラな者もいる。後者の場合、受験テクニックとして偏差値によって受験したものだとなると、入学後の勉学指導に困難が予想される。

生涯教育コースの場合、本学部B課程以外の受験大学を多い順に挙げると、大阪府立大学、関西大学、大阪市立大学、関西学院大学、大阪女子大学のようになる。本学部B課程を第1志望としていた者の割合は27.5%である。学部、学科では人間科学、心理学、行動科学を同系とすると、これが最も多い。次いで、経済学部、商学部の系統が多く、社会学を文学部に含めれば、その次に文学部、そして教員養成を目的とする学部・課程が続く。学部の学科構成は大学によって異なるので、あまり厳密ではなく、大まかな傾向である。

生産科学課程の場合、本学部B課程以外の受験大学を多い順に挙げると、立命館大学、近畿大学、大阪府立大学、大阪市立大学、関西大学となっている。学部は、工学部または理工学部が圧倒的に多い。その他には、農学部、理学部、教育学部、および経済学部がそれぞれ同程度の数で並んでいる。

入学後勉学意欲を感じているかという質問について、共通して言えるのは、「イ. B課程での勉学に強い意欲を感じている。」という回答は少なく、「ハ. 期待とは違っていたが、それなりに意欲と目的意識を持って勉学している。」という者が最も多い。しかし、生産科学課程では、「ニ. 期待と違っていたので、勉学に意欲を感じていない。」とする者が21%にもなり、文化社会課程国際文化コースでも14%で多少目立っている。このあたりは重要な問題として認識しておく必要がある。

〔B〕カリキュラム

語学、体育、一般教育科目、課程共通科目、コース共通科目、コース専門科目の必要単位の負担に関して、適当と答えている者の率は、全て半数を越えている。体育は87~95%、課程共通科目は81~89%で、課程、コースによる違いはあまりない。また、語学の負担感が強いのも共通していて、適当とする者の率は61~65%と低い。特に、生産科学課程の1年生で語学を過重としている数が多いのは、理系の選抜で2次の学力試験で語学を課していないことと関係しているのだろうか。上の学年では適当とする者が多い。文化社会課程の各コースでは一般教育科目を過重とする率が多く、コース共通科目、コース専門科目は適当とする率が高い。生産科学課程では、それほど強くはないが、逆の傾向が表れている。生涯教育コースの一般教育科目に関する過重感は、1年生に極端に表れているもので、時間割の組み方による一過性のものと理解するのが適当かもしれない。

カリキュラムの系統性については、いずれの課程も「ロ. カリキュラムの系統性については、特に意識したことはない。」という回答が多く、国際文化コース74%、生涯教育コース77.5%、生産科学課程61%である。生産科学課程では、文化社会課程の場合よりその率は低く、上の学年になると「ハ. 系統性に欠けていると思う。」の率が増加する。専門やゼミに入って、初めて理系分野の勉学に系統性が重要なことを意識し出したことの表れであろう。国際文化コースでハを選択した者の中では、科目の重複が多いことを理由とする意見が目立った。

必修科目以外の科目を選択する場合の選択基準については、「イ. 専攻に関連している科目を優先する。」と「ロ. 自分が興味ある科目を選択する。」がどの課程も多い。次に「ニ. 単位がとりやすい科目を選択する。」と「ホ. 取りやすい時間帯の科目を選択する。」が並ぶ。それぞれの率や順位は、課程、コースによって多少異なる。どのような科目を必修としているかが異なるので、一概に比較評価することはできない。

時間割に関しては、半数弱が「ロ．履修しにくい場合がある。」としている。複数の必修科目が同一の時間に重なることを指摘する意見が多い。時間割編成に当たっては負担の分散に心がけなくてはならないが、具体的な意見を当たってみると、再履修を前提としての訴えも多く、必ずしも同時履修または系統的履修が必要な科目の重なりとばかりは言えない。

各科目の内容に関しては、個別的な意見が多く、別の機会に詳しく紹介する方がよいと考え、ここでは簡単にふれるに留める。語学に関しては、専攻に関係ないなどの理由で、講読の内容、あるいは文法に興味を持てないとか、教官の熱意を「よく怒る」、あるいは自分が必死になっているのを理解してもらえないと訴える一方、楽しい、内容がよいという評価もあり、語学力の向上、実用性を求めるというような意見もある。初習の外国語に関しては、英語以外の文化に触れる機会を評価する意見も多いが、1年間で文法を全て理解させるよりは、わかりやすくやってほしいというような要望もある。体育実技は、むしろ楽しんでいる様子で、種目の自由選択を可能にしてほしいという意見が多い。

不足している科目としては、国際文化コースでは政治学、歴史学関係が比較的多い。生産科学課程では、低学年では環境科学、科学技術英語、現在よりもっと易しい基礎的数学物理等を挙げ、高学年では自分の専攻分野の講義名を挙げている。

〔C〕専攻指導

入学時にB課程各小委員会で行う専攻指導に関して、「イ．適切でよく理解できた。」とする者は、生涯教育コースに多く、比率は42%である。他は、国際文化コースが24.7%、生産科学課程が28%であり、入学時の予備知識があまり無い段階で行っているガイダンスであることを考慮しても、評価は低すぎる。国際文化コースでは、学年が下がるほど不十分と答えた者の率が高くなる。具体的には、受講登録の仕方、時間割の組み方、履修システム等を挙げているので、必ずしもB課程だけの問題とは言えず、履修体系や履修手引きの記載方法なども関係しているのではないか。その不足を何で補ったかという問には、多くの者が「ロー1．友人と話し合った。」あるいは「ロー2．先輩に相談した。」としている。

入学後の専攻ガイダンスについては、国際文化コースでは適当39.3%、不適当31.5%、生涯教育コースでは適当62.5%、不適当25.0%、生産科学課程では適当54.7%、不適当22.6%となっており、入学時のガイダンスを含めて、生涯教育コースの専攻指導は比較的评价が高い。生産科学課程は何とかまあまあ、国際文化コースは強く改善を望まれると言ったところか。専攻決定の時期や方法は、生産科学課程だけが異なり、他は教員養成課程と同じである。生産科学課程では、時期及び方法について適当とする者の率はそれぞれ58.5%と60.4%、不適とする者がそれぞれ17.9%と14.2%である。文化社会課程では、生涯教育コースで時期、方法を適当という回答がともに75%と高いが、国際文化コースでは58.4%及び43.8%と低く、無回答も多い。ガイダンスや専攻指導に評価が高い生涯教育コースで適当とする比率が高いことを考えると、問題は、時期とか方法とは別の、専攻指導の方法とか内容にあるのではないかと考えられる。生産科学課程では、毎年情報科学専攻を希望する者が多く、従ってその定員制限には不満が強い。また、専攻や研究の内容を知る機会を増やしてほしいという意見もある。

専攻決定に当たって必要な知識を持っていたかという質問には、生涯教育コースの55%が「イ. 必要な知識を持って専攻を決めることができた。」としているのと対照的に、文化社会課程ではその比率が32.4%、生産科学課程では33.8%となっている。専攻を何で決めたかという問には、「ロ. 自分の志望。」と答えた者がどの課程でも80%を越えている。専攻後の満足度は、希望通りの専攻に入り「イー1. 期待通りであった」、「イー2. ほぼ満足している」が国際文化コースではそれぞれ31.1%及び40.5%、生涯教育コースでは14.8%及び74.1%、生産科学課程では26.5%及び60.3%となっており、満足度は、生涯教育、生産科学、国際文化の順である。国際文化コースの場合に、希望通りの専攻ができなかった者が少しおり、その場合当然満足度は低くなる。

専攻指導には改善の余地があるようである。また、専攻前に学生が履修する講義だけでは専攻の教官構成や研究内容がわかりにくいということにも問題があるのであろう。専攻指導や専攻決定の方法に不満がある割には、専攻後の満足度は高い。これなど、適切な教育と指導があれば、相当に状況を改善できることを示しているように思われる。

〔D〕勉学条件

教室、演習室に対する不満は各課程で共通していて、内容は空調、特に、本学の学年歴では7月末まで講義と試験があるため、クーラーを設置してほしいという意見が多い。

図書館に関しては、専門書、新刊書が少ないという不満が多い。旧本館、分館、および移転統合後の新分類法というように、異なる分類が併存していて検索がしにくい、書籍の配置がわかりにくい、開架図書と書庫内図書がカードではわかりにくい、雑誌の利用が不便というような意見があり、新本の整理を迅速さ、コピー料金、貸出期間、冊数、開館期間等に関する要望もでている。コンピュータに関しては、生産科学課程に不満の意見が多い。使えるコンピュータの数が少ない、使用できる時間が短いという意見の他、コンピュータの設置してある部屋が使いにくいという意見もある。

〔E〕大学進学目的、将来の進路

大学進学時の期待と比べて、「イ. 期待通りであった。」及び「ロ. 期待とは大分異なる。」とする者は、国際文化コースではそれぞれ27.8%と55.7%、生涯教育コースでは40%と47.5%、生産科学課程では27%と40.6%となっており、特に国際文化コースと生産科学課程で、入学前の期待との食い違いが大きい。進学時の期待、目的に関して、国際文化コースでは、幅広い教養や知識の獲得を挙げる者が28%、特定の専門を学ぶとした者が42.8%、その中には国際的な知識や外国語を挙げる者が24%含まれる。就職を挙げた者は5.7%と意外に少なく、あと、充実した生活などとしている者もいる。生産科学課程の場合、教養を身につける、自由に学ぶという者19.4%、専門の勉強を挙げる者38.8%、その中ではコンピュータと具体的に挙げる者もいる。遊ぶ、生活をエンジョイするという者も結構多くて25.3%、勉強も遊びもという者を入れるとこの数はもっと多くなる。期待と異なるという者の比率はどの課程も低学年ほど高い。期待外れ感の原因としては、国際文化コースでは、教育内容が「国際文化」の名にふさわしくない、貧弱という意見が特に高学年に多い。低学年では専門性の欠如を挙げている。生涯教育コースの低学年では、大学の自由さ、楽しさ、華やかさを期待していて、期待に反していた、あるいは専門科目以外の必修

を理由に期待外れという者が多い。生産科学課程では、低学年の期待外れ感は、自分のやりたいことがわからない、勉強で忙しい、ついてゆけないという者のが多い。高学年では、専門の教官や講義の不足、専門の難しさを挙げる者が多い。理系的な系統的な勉学や科目の履修ができていないことに問題があるのかもしれない。

卒業後の進路について、国際文化コースでは一般企業が60%、公務員が25%、生涯教育コースでは一般企業が40%、公務員が37%となっており、この2つの比率が高い。生産科学課程では一般企業54.7%、公務員14.2%、他に大学院進学11.3%が公務員と並んでいる。理系の分野では、公務員として活躍できる場が限られているからであろう。

教員免許状の取得を「イ.目指している」とした者は、国際文化コースで41.6%、生涯教育コースで20%、生産科学課程で14.2%となっているが、国際文化コースでも、卒業後の進路として教員を考えている者は少ない。

卒業後の進路との関係でB課程の教育をどう考えているかという問には、「イ.教育内容が将来役立つと考えている。」とする者は少なく、「ロ.直接役に立つということはないが、広い意味で有益である。」とする者が多い。これらをあわせると、国際文化コースで61.7%、生涯教育コースでは85%、生産科学課程では62.3%である。しかし、「ニ.就職に不利である。」という回答も多く、それぞれ20.2%、7.5%、18.9%ある。理由としては、教育学部は教員養成と一般には思われているということを挙げる者が多く、生産科学課程では、教育学部なので生産科学といっても文系と見られということを挙げる者が目立った。

〔F〕その他、要望事項等

全般に、B課程の独自性を明確に出して充実をはかってほしいという意見が多く、中にはB課程を独立させろというような意見もある。国際文化コースでは留学制度を望む意見が多く、生産科学課程では理工系の専門の教科を望む意見が多かった。

4. 考察

ここでは、各課程・コース毎にアンケートの分析・評価を行い、各課程・コースの特徴、現状の把握や問題点の抽出等を試みる。

1. 文化社会課程国際文化コースの学生の特徴的傾向

(1) 志向特性からみた学生像

〔A〕志望理由、〔E〕大学進学目的、将来の進路に対する回答から、以下のよう学生像が窺える。

A-1で本コースを第1志望とする者はごく僅かで、圧倒的多数は第2志望以下である。併願の大学・学部から本来の専攻希望分野を探てみると、外国語・外国文学・国際関係の専門学部・学科、続いて社会諸科学の専門学部・学科が圧倒的で、教育学部・総合科学部は少ない。中には受験学部・学科が一貫しない者もいるが、偏差値というフィルターを通過して、いわば次善の策としてこのコースに落ち着いたものと考えられる。

B課程あるいは本コースに対する受験時の認識・期待は、半数が、教員養成課程との比較で多少専門的な教育をする、あるいは教免を取らないだけの課程というように、割合現実的であり、残り半数は、専門学部のような教育を行う、あるいは教員養成課程とは異なり国際文化を学べるというように回答している。勉学の目的については、文学・言語を中心とする「比較文化」が最も多く、次いで「国際関係・政治」、「歴史・社会」の順になっている。大学進学時の期待・目的では、「専門的な勉強」が43%（そのうち国際文化に関連する勉強は24%）あり、他には、「幅広い教養や知識の習得」28%、一般的な「学生生活」に対する期待28%が目立つ。就職や将来の進路を意識したという者は5.7%で極めて少ない。

卒業後の進路は、一般企業の60%が最も多く、次いで公務員25%、大学院進学7%である。

以上の結果から、半数近くが、国際文化を中心とする自分が本来希望している専門分野の勉強を行うことを期待し、一定の目的意識を持って入学しているとみてよいであろう。

(2) 入学後の学習・勉学条件についての学生の意識

入学後の学習意欲について、最も多いのは「期待とは違っていたが、それなりに意欲と目的意識を持って勉強している」の49%である。「特に考えることもないが、必要な勉強は行っている」の18%と併せると、約7割の学生は、なんらかの失望や期待はずれを感じながらも、自分なりに軌道を修正し、関心ある分野を見出し勉学に取り組む意欲を持っているとみてよいであろう。他方、「期待はずれで勉学意欲を持ってない」と答えている学生が14%いることも無視出来ない。

さて以上のような意識を持つ学生が、彼らの勉学上の大枠を規定するカリキュラム、専攻指導、勉学条件（施設・設備）についてどのように考えているのであろうか。

① カリキュラム

必要単位数について、一般教育科目、語学（20単位）を過重と感じている者の割合は相対的に高いが、課程共通科目、コース共通科目、コース専門科目は多くが適当と答えている。体育については一般的に不満はなく、むしろ楽しんでいるようである。

カリキュラムの系統性については特に意識していないが、時間割の組み方では、取りたい授業や必修の授業時間が重なって履修しにくいという不満が多い。授業内容では、語学に関する感想や意見が多く、また専門科目になるほど開設科目増加の要求が増えている。特に不足科目として、政治学、歴史学関係を挙げている者が多い。

② 専攻指導

入学時のB課程のガイダンスについては、3分の2が不十分だとしており、その割合は下の学年ほど大きい。このことは、専攻選択にあたって必要な知識を持っていなかったという回答が半数以上であることにも反映している。学生はもっと詳細なガイダンスや情報を求めているが、大学はそれに答えきれていないということである。それを補うため、彼らは、教官よりも友人や先輩に相談している。専攻決定の時期について適切とする者は58%だが、専攻決定の方法では適切とする者が44%に減り、不適切とするもの29%となる。ほとんどの学生は自分の意志で専攻決定に

臨んでいるが、専攻が希望と異なると答えている者が17.6%いる。結果的には、専攻決定後の満足度は高い(85%)ものの、残り15%の不満を解消するためには、専攻ガイダンスにもっと力を入れる必要がある。

③ 勉学条件(施設・設備)

不便であるという回答が多いのは、教室、図書館、図書館の蔵書である。教室に関しては、「夏クーラーがほしい」「大教室の照明が不十分」「椅子がきしんでうるさい」等である。図書館に関連する記述が最も多く、とりわけ文献検索の不便さを挙げるものが多い。書籍の分類システムが複雑、開架図書・学生用図書が少ない、しかも学生は書庫に入れないということで、図書館は利用しにくいということになる。雑誌の種類の増加や利便性、書庫への出入り、貸出期間や冊数の制限緩和、休日開館、他大学の蔵書のコンピュータ検索などについての要望もある。

(3) これまでの大学生活全体の感想と学部・B課程への要望

入学時の期待(各専門分野の知識、国際的な知識や外国語、幅広い教養の習得など)との比較で、「期待とは大分異なる」という回答が過半数(55.7%)を占め、「期待どおり」の2倍になる。期待はずれの原因として、「国際文化」の名に相応しい教育内容が貧弱であり、専門科目が少なすぎるという指摘が多い。卒業後の進路との関係では、「広い意味で有益である」(54%)が最も多い。しかし、「就職に不利」も多く(20%)、理由として多くの者が「教育学部に属していること」を挙げている。教免取得を目指しているという回答は41%あるが、実際に教員になるとしている学生は少ない。

学部・B課程への要望事項として最も多いのは、B課程の独自性をもっと明確に出して内容を充実させてほしい(51.7%)というものである。他に、学生・教官定員の増加、留学制度の実現、あるいはガイダンス・専攻指導や就職指導の強化を求めるものから、国際文化コースを独立の学部にするべきだというような意見まである。

(尚、詳細は別途公表を予定している。文責 大倉)

2. 文化社会課程生涯教育コースの傾向

生涯教育コースは、1989年の設置以来、1回生に「生涯人間発達研究法」という必修の授業を設け、コースを構成する5領域を紹介し、各領域の教官と接触する機会を用意してきた。またそれを利用して、学生たちの意識や希望など、コースの運営に関する調査を継続的に行ってきた。入学定員が20名で、所帯が小さいためにできたことではあるが、専攻決定までのガイダンスには十分に配慮してきたつもりである。入学時のB課程ガイダンスを「不十分でよく理解できなかった」者は55.0%もいるが、コースの専攻ガイダンスに関しては62.5%が「適切」としており、55.6%が「必要な知識を持って専攻を決める」ことができたとしている。運営委員会の努力がある程度は報われていると思われる。専攻の決定はほぼ全員が自分の意志で行っており、「希望通りでなかった」者はいなかった。A-4の回答によれば、勉学意欲の点でも、「意欲を感じていない」者は7.0%と極めて少数で、全体として大学生活への適応はかなり良好であると考えてよさそう。

しかし、受験時に本コースを第1志望にして入学してきた者は27.5%にすぎない。

併願校を見ても、法・経・商系の学部や理工系学部を受験している者もかなり多く、入学時点で本コースの内容をどこまで承知していたのかは疑問である。一方、何を学ぶことを目的にこのコースに入学したかという質問に対しては、「心理学」を筆頭に、「運動」、「住居」、「栄養」、「社会教育」、「福祉関係」などコースの専門領域をあげており、特定の専攻を予定して入学してくる者が85.0%にのぼる。その中では、本コースでの専攻希望と同系統の大学・学部を併願している者の場合、専攻への意志が強く、勉学への態度も熱心であるが、法・経・商系の学部を併願するなど受験学部が拡散している場合は、希望する専攻を変更したり、勉学に意欲を示さない者が散見され、入学後のきめ細かいガイダンスが必要であると感じられる。

カリキュラムに関しては、語学・一般教育という「基礎教育科目」への不満が目につく。特に1・2回生に、「好きな勉強を自由にできると期待して入学したのに、専門外の授業をたくさん受けなければならない」という不満が強いようである。それはB課程の専門性への期待と表裏であって、「低学年から専門科目を受講できるようにしてほしい」、「専門科目をもっと増やしてほしい」といった希望になって現れている。「語学」、「体育」、「一般教育」、「課程共通」、「コース共通」、「コース専門」に対する意見を記している者は、それぞれ30.0%、22.5%、52.5%、17.5%、22.5%、12.5%であり、履修した科目への意見を記している者は52.5%、20.0%、37.5%、17.5%、27.5%、30.0%である。「体育」と「コース専門」には肯定的な意見が、「語学」と「一般教育」には否定的な意見が大部分を占め、「課程共通」「コース共通」は賛否半ばする。「一般教育」「課程共通」「コース共通」は履修後の意見には肯定的な内容が多くなるのに対して、「語学」には履修後も内容への不満が強い。また「一般教育」「課程共通」では自然系の授業がわかりにくい、不親切だという声が多く見られる。開設を希望する科目をあげた者は15.0%と少数であり、内容も個別的であるが、強いて共通点を探せば「資格取得」に結びつくような科目をとということになるのかもしれない。

今回のアンケートの回収率は48.8%と低く、コース学生の意見を代表しているのか不安が残る。アンケートに応じない者にはもっと強い不満が潜在しているのではないかということも考えられるが、生涯教育コース運営委員会がこれまで行ってきた大学生活に関する調査においても、今回のアンケートと同じような内容を尋ねている部分が多くあり、全体的な傾向についてはおおむねこれまでの調査と共通しているように思われる。

(文責 植田)

3. 生産科学課程の傾向

生産科学課程は、情報科学コースと生産基礎コースに分かれている。前者は専門分野としては狭く、従って、学生の目的意識もはっきりしているようで、それはA-2に対する回答からもわかる。後者の場合、物理、化学、生物、地学、技術の一部を含むというように、教官構成の上からも関係する専門領域が広がり、また入試要項からも、理、工系の専門学部比べてどこが異なるのかがわかりにくい。これは課程の成立経過からみてやむを得ない面もあるが、そのことが、実際に生産基礎コースの学生のA-2に対する回答で入学時の目的がどちらかというあいまいであることに表れ

ているようである。実際、いわゆる受験対策にのって入学してきたのではないかと疑いたくなるような回答も多く含まれている。前節でも述べているが、A-3の回答で、受験した大学・学部が一貫していない者、A-4にあるように入学後期待とは異なっていたとする者が多いことからこの事がうかがえる。

アンケート実施時3年生だった42期生から、いわゆる進級制度がスタートして、3年次の開始時に一定の履修条件を満たしていない者は専攻が行えないことになった。過去3年間にこの制度の適用によって進学できなかった者の数は、情報科学コースで各年度それぞれ2名、1名、4名であるのに対し、生産基礎コースでは9名、1名、7名となっている（ただし連続して進級できなかった者は除く）。学年による変化はあるものの、生産基礎コースの進級率の悪さが目立つ。この事が、上で述べた低い目的意識と関連しているのではないかとということが心配である。

カリキュラムに関しては、語学、特に英語に関する不備が多いように思われる。本課程は受験科目に英語を含んでおらず、そのため英語の不得意な学生が多く入学してきているようで、語学力をいかにひき上げるかが今後の大きな課題の一つであろう。一般教育課目では、おもしろくないという意見が目立ち、コース共通課目にたいしては難しすぎる、必要性が認められない等の意見があった。4年生の意見で、必修である事の意味が専門に入ってからわかったというのがあり、必修課目の内容と専門との関連についてもっと説明が必要であろう。具体的な授業科目に対しても、かなりきびしい批判があり、今回は報告しないが、授業にたいする自己評価にかかわる事でもあり、各授業科目の担当教官が点検できるような機会があればと思っている。

生産科学課程の教育全体を振り返ってみると、なによりもまず、入学してくる学生に、各コースの内容や、専攻の選択においてできる事できない事、あるいは専攻のための勉学の方法等を早期に周知させ、必要な必修科目は、きびしく体系的に教育することが必要ではないかと考える。またそのためには、授業展開に対する教官自身の自己評価や相互評価を行い、あるいは学生による授業評価や意見聴取等を受けとめ、絶えずカリキュラムや授業内容の改善を積み重ねてゆかなくてはならない。

（文責 桶矢）

謝 辞

このアンケートは、平成3・4年度の文化社会課程・生産科学課程運営委員会の最後の仕事として行い、作成から実施、集計に至るまで、委員各位の多大な協力を得たものであり、ここに著者以外の委員の氏名を記し、謝意を表します。

国際文化コース小委員会：坂本正雄、長谷川哲哉、松下洸、松村巧

生涯教育コース小委員会：後藤容子、高橋正人、細谷圭介、矢野勝、山本健慈

生産科学課程小委員会：伊藤久徳、門田良信、高須英樹、松井徹、宮永健史、山本秀彦
教務委員会選出委員：加藤弘、就職委員会選出委員：谷口欣弥

また、泉健、重松知恵子両氏には、国際文化コースのアンケート集約・分析にご協力いただいたことを感謝いたします。

付表 アンケート集計表

アンケートの質問、回答の選択項目と、回答の集計を示す。記述式の回答部分は省略した。

入学年度別アンケート回収数・回収総数

入学年度	国際文化コース					生涯教育コース					生産科学課程						
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	不明	計	
入学者数	40	40	40	40	160	21	20	20	21	82	41	42	42	39		164	
回収数	15	19	27	28	89	13	8	12	7	40	22	24	25	34	1	106	
回収率	55.6%					48.8%					64.6%						

データは、国際文化コース、生涯教育コース、生産科学課程のそれぞれ、学年別に左より1回生、2回生、3回生、4回生、及び合計数の順で並べる。()内は%を示す。

[A] 志望理由

A-1: B課程受験する際には、この課程がどのようなものだと考えていましたか。

入学年度	国際文化コース			生涯教育コース			生産科学課程			
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計
イ. 文学部、理学部、工学部のように専門分野の教育をする課程である。	4	3	9	9	25(26.3%)	3	3	2	2	10(25.0%)
ロ. 就職するとき、専門学部の卒業者と同格に就つてもらえる課程である。	2	2	3	6	13(13.7%)	0	5	2	2	9(22.5%)
ハ. 教員養成課程に比べれば多少専門的な教育をする課程である。	6	11	10	9	36(37.9%)	6	3	8	2	19(47.5%)
ニ. 教員養成課程と殆ど同じ内容で、教員免許状をとらないだけの課程である。	1	6	2	2	11(11.6%)	3	1	0	1	5(12.5%)
ホ. その他	2	1	5	2	10(10.5%)	2	2	0	0	4(10.0%)

A-2. どのような学問分野、学問領域または関心事について学ぶことを目的にB課程に入学しましたか。出来るだけ具体的に答え下さい。

入学年度	国際文化コース					入学年度	生涯教育コース					入学年度	生涯科学課程					
	'92	'91	'90	'89	計		'92	'91	'90	'89	計		'92	'91	'90	'89	計	
文学・言語 比較文化・言語 国際関係・政治 歴史・社会 その他	3	4	17	17	41(41.3%)	心理学	5	6	6	3	20(50.0%)	理系	7	7	2	9	25(23.6%)	
	3	5	9	6	23(23.5%)	運動(スポーツ)	6	1	2	0	9(22.5%)	工学系	2	1	0	3	6(5.7%)	
						生活環境(家政学)	0	1	2	1	4(10.0%)	情報	15	9	11	10	45(42.5%)	
						生涯教育	0	1	0	1	2(5.0%)	農学~環境	3	3	5	0	11(10.4%)	
						社会福祉(福祉関係)	1	0	0	1	2(5.0%)	教員	0	1	0	1	2(1.9%)	
1	8	3	4	16(16.3%)	教育学	0	1	0	0	1(2.5%)	一般教養	0	2	0	0	2(1.9%)		
						人間に關すること	0	0	1	0	1(2.5%)							
						広く	2	0	0	0	2(5.0%)							
						無回答	0	0	1	0	1(2.5%)							

A-3. あなたは本学部のB課程以外にどのような学部・学科を受験しましたか。和歌山大学を含めて記入して下さい。

入学年度	国際文化コース					生涯教育コース					入学年度	生産科学課程				
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計		'92	'91	'90	'89	計
大阪外国語	3	2	3	2	10	神戸大・教育	1	1	1	3	和歌山大・教育	27	19	17	18	81
神戸・教育	1	1	1	1	3	奈良教育大	2	1	1	1	九州大・工学	1	1	1	1	1
法	1	1	1	1	1	京都教育大	1	1	2	2	福岡教育大・教育	1	1	1	1	1
文	1	1	1	1	1	滋賀大・教育	1	1	1	1	下関市立大・経済	1	1	2	2	2
教育	2	1	1	1	2	島根大・教育	1	1	1	1	山口大・経済	1	1	2	4	4
法	1	1	1	1	1	島根大・農	1	1	1	1	鳥取大・工学	1	1	1	1	1
人文	1	1	1	1	1	金沢大・経済	1	1	1	1	鳥取大・農学	1	1	1	2	2
経済	1	1	1	1	1	和歌山大・経済	1	1	1	1	島根大・理学	2	1	1	3	3
人文	1	1	1	1	1	千葉大・文	1	1	1	1	島根大・農学	2	1	1	2	2
教育	1	1	1	1	1	東京学芸大	2	2	1	4	広島大・工学	2	2	1	1	1
経済	1	1	1	1	3	奈良女子大・家政	1	1	2	1	広島大・理学	2	2	1	1	1
教育	1	1	1	1	1	大阪市大・文	1	1	1	2	総合	2	2	1	1	1
文	1	1	1	1	1	大阪府大・経済科学	1	1	2	3	岡山県立大・経営	2	2	1	1	1
経済	1	1	1	1	1	大阪府大・文	1	1	1	2	岡山県立大・工学	2	2	1	1	1
教育	1	1	1	1	1	大阪女子大・学芸	1	1	1	1	工学	2	2	1	1	1
3群	1	1	1	1	1	都留文科大・文	1	1	1	1	教育学	1	2	1	1	3
法	1	1	1	1	1	岐阜女子大	1	1	1	1	農学	1	2	1	1	1
教育	1	1	1	1	1	関西外大・英文学科	1	1	1	1	理学	1	2	1	1	1
法	1	1	1	1	1	関西学院大・文	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
人文	1	1	1	1	1	社会	1	1	1	1	農学	1	2	2	2	2
教育	1	1	1	1	1	商	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1	経済	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
法	1	1	1	1	1	法	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1	社会	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
商	1	1	1	1	1	立命館大・文	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
生活科学	1	1	1	1	1	立命館大・商経	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
社会福祉	1	1	1	1	1	近畿大・商経	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1	立命館大・文	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1	立命館大・商経	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1	早稲田大・文	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1	早稲田大・人間関係	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1	流通科学大・経済	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1	京都女子大・家政	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1	大谷女子大・文	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1	武庫川女子大	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1	武庫川女子短大	1	1	1	1	工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
総合科学	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
学芸	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
文	1	1	1	1	1						工学	1	2	2	2	2
経済</																

	4
立命館・文	
・國際關係	7
・産業社会	3
・法	1
関西学院・文	
・社会	1
・経済	2
同志社	5
・商	1
龍谷・文	
・人文	1
・経営	1
・経済	2
関西外国語・外国語	
京都産業・外国語	3
近畿・文芸	1
・商経	1
京都市子・文	
・短期	1
神戸商科・商経	1
武蔵川女子・文	2
愛知・文	1
大谷女子・文	1
甲南女子・文	1
京都橘女子・文	1
桃山学院・文	1
南山・英語	1
京都外國語・外国語	1
北陸・外国語	1
明治・法	1
立教・経済	1
創価・経営	1
流通科学・商	1

入学年度	国際文化コース					生涯教育コース					生産科学課程				
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計
第1志望	2	0	3	1	6(6.7%)	5	1	3	2	11(27.5%)	6	4	7	12	29(27.4%)
第2志望	4	7	10	2	23(25.8%)	2	3	4	5	14(35.0%)	11	10	8	9	38(35.8%)
第3志望以下	4	5	12	2	23(25.8%)	5	4	5	0	14(35.0%)	1	3	4	6	13(12.3%)
無回答	5	6	2	23	36(30.2%)	1	0	0	0	1(2.5%)					

A-4. B課程に入学して、現在あなたは勉学に意欲を感じていますか。また、B課程に対してどのような様な感想をもっていますか。

入学年度	国際文化コース			生涯教育コース			生産科学課程								
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計					
イ. B課程での勉学に強い意欲を感じている。	0	0	0	0	0(0.0%)	2	0	1	4(10.0%)	2	1	0	0	3(0.8%)	
ロ. B課程における勉学は、自分の将来に役にたつものと思っている。	0	0	0	2	2(2.3%)	6	1	2	13(32.3%)	3	4	1	5	13(12.3%)	
ハ. 期待とは違っていたが、それなりに意欲と目的意識を持って勉学している。	7	10	15	11	42(48.3%)	3	5	6	2	16(40.0%)	8	11	7	10	36(34.0%)
ニ. 期待と違っていたので、勉学にはあまり意欲を感じていない。	1	2	5	4	12(14.0%)	2	1	0	0	3(7.5%)	8	5	5	4	22(20.8%)
ホ. 特に考えることもないが、必要な勉学は行っている。	5	2	3	6	16(18.5%)	2	1	3	1	7(17.5%)	8	5	10	5	28(26.4%)
ヘ. 特に考えることもなく、勉学に打ち込んでいない。	0	2	0	1	3(3.3%)	0	0	0	0	0(0.0%)	3	2	1	0	6(5.7%)
ト. その他	1	2	3	5	11(12.8%)	0	1	0	0	1(2.5%)	3	0	1	2	6(5.7%)

(B) カリキュラム

B-1. あなたの属している課程、コースのカリキュラムについて、必要単位数の負担をどう感じていますか。また、改善のための意見がありますか。分類ごとに記入して下さい。

国際文化コース

入学年度	'92	'91	'90	'89	計		
	適当	過重	過重	過重	適当	過重	無回答
語学	9	6	15	20	54 (64.3%)	21 (30.7%)	
体育	14	1	22	26	79 (96.3%)	3 (3.7%)	
一般教養科目	4	11	15	8	50 (60.2%)	33 (39.8%)	
課程共通科目	11	2	19	4	71 (88.8%)	9 (11.2%)	
コース共通	10	1	21	2	72 (97.3%)	5 (2.7%)	
コース専門	7	5	18	5	62 (79.5%)	16 (20.5%)	

生涯教育コース

入学年度	'92	'91	'90	'89	計		
	適当	過重	過重	過重	適当	過重	無回答
語学	8	5	10	4	25 (64.1%)	14 (35.9%)	1
体育	12	1	10	7	36 (94.7%)	2 (5.3%)	2
一般教養科目	3	10	8	4	21 (55.3%)	17 (44.7%)	2
課程共通科目	10	3	10*	7	31 (83.8%)	6 (16.2%)	3
コース共通	10	3	8*	6	28 (80.0%)	7 (20.0%)	5
コース専門	10	3	7*	7	31 (83.8%)	6 (16.2%)	3

生産科学課程

入学年度	'92	'91	'90	'89	計		
	適当	過重	過重	過重	適当	過重	無回答
語学	9	21	16	20	65 (61.3%)	33 (31.1%)	
体育	27	3	23	22	92 (86.8%)	4 (3.8%)	
一般教養科目	24	7	20	17	80 (75.5%)	19 (17.9%)	
課程共通科目	27	3	20	3	86 (81.1%)	13 (12.3%)	
コース共通	22	4	17	5	74 (69.8%)	19 (17.9%)	
コース専門	23	1	16	6	72 (67.9%)	17 (16.0%)	1

B-2. カリキュラムの構成について、分野によっては順序よく履修しないとわかりにくいという場合もありますが、その点についてどの様に感じていますか。

入学年度	国際文化コース					生涯教育コース					生産科学課程				
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計
イ. 系統的に組まれていると思う。	1	2	1	4	8(9.0%)	0	1	2	0	3(7.5%)	3	3	2	2	10(9.4%)
ロ. カリキュラムの系統性について、特に意識したことはない。	13	16	17	17	66(74.1%)	12	6	8	5	31(77.5%)	16	22	16	11	65(61.3%)
ハ. 系統性に欠けていると思う。	1	2	7	5	15(16.9%)	1	1	1	2	5(12.5%)	3	1	6	8	18(17.0%)
無回答						0	0	1	0	1(2.5%)					

B-3. 必修科目以外の科目を履修する場合、どのような基準で科目を選択しますか。いくつでも選んで下さい。

入学年度	国際文化コース					生涯教育コース					生産科学課程				
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計
イ. 専攻に関連している科目を優先する。	8	16	17	16	57(21.8%)	10	6	6	5	27(67.5%)	20	17	18	13	68(64.2%)
ロ. 広い教養を身につけることを目的に選択する。	7	4	4	7	22(8.4%)	1	0	3	2	6(15.0%)	6	4	1	6	17(16.0%)
ハ. 自分が興味がある科目を選択する。	13	15	22	13	63(21.4%)	9	8	10	7	34(85.0%)	26	19	18	18	81(76.4%)
ニ. 単位が取りやすい科目を取る。	9	8	11	11	39(14.9%)	7	4	3	1	15(37.5%)	21	14	19	7	61(57.5%)
ホ. 取りやすい時間帯の科目を選択する。	10	13	11	16	50(19.0%)	7	5	4	1	17(42.5%)	11	19	14	5	49(46.2%)
ヘ. 友人が受講するから選択する。	1	1	0	2	4(1.5%)	0	0	0	1	1(2.5%)	1	6	4	1	12(11.3%)
ト. 担当の先生をみて選択する。	4	8	5	9	26(10.0%)	1	3	1	3	8(20.0%)	2	5	7	4	18(12.3%)
チ. その他	0	0	1	.	.	1	2(1.9%)

B-4. 時間割は履修に無理なく組まれていていると考えていますか。

入学年度	国際文化コース					生涯教育コース					生産科学課程				
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計
イ. 履修に関してそれほど無理は感じない。	8	10	12	15	45(52.3%)	5	5	7	4	21(52.5%)	21	15	8	13	57(53.8%)
ロ. 履修しにくい場合がある。	6	8	15	12	41(47.7%)	8	3	4	3	18(45.0%)	13	11	15	8	47(44.3%)
無回答						0	0	1	0	1(2.5%)					

B-5. 履修した科目の中で、いろいろな意味でプラスになった、印象が深かった、あまり有益とは思われなかった、内容を改善してほしい等の意見がありましたら、それぞれの欄に科目名と意見を記入して下さい。(回答省略)

B-6. あなたの勉学の目的に取って必要な科目で、本学部であればよかったと思うものがあれば書いて下さい。また、その科目がないため特別にどのように対応してきましたか。(回答省略)

〔C〕専攻指導

C-1. 入学時のB課程のガイダンスは適切であったと思いますか。

入学年度	国際文化コース					生涯教育コース					生産科学課程				
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計
イ. 適切でよく理解できた。	2	3	6	11	22(24.7%)	9	2	3	3	17(42.5%)	12	5	5	8	30(28.3%)
ロ. 不十分でよく理解できなかった (具体的にどんな点：)	12	13	19	16	60(67.4%)	4	6	8	4	22(55.0%)	21	18	19	13	71(67.0%)
それを補うために	7	7	13	8	35	0	5	3	2	10	4	8	14	8	34
ロ・1 友人と話し合った。	3	1	3	0	7	0	1	1	0	2	0	3	2	0	5
ロ・2 自治会主催のガイダンスに参加した。	8	8	13	2	31	2	2	3	2	9	15	12	6	0	33
ロ・3 先輩に相談した。	0	0	1	3	4	1	1	0	1	3	0	0	0	3	3
ロ・4 教官に尋ねに行った。	0	0	1	3	4	2	0	2	0	4	2	0	2	2	10
ロ・5 特に何もなかった。	1	2	5	6	14	0	0	0	1	1	0	0	2	1	3
ロ・6 その他	1	3	2	1	7(7.9%)	0	0	1	0	1(2.5%)					

無回答

ロ. 不十分でよく理解できなかった (→ 具体的にどんな点：)

C-2. 専攻決定に至るまでのガイダンスは適切に行われていると思いますか。また、専攻決定の時期および手続きについてどう考えますか。

国際文化コース

入学年度	'92	'91	'90	'89	計		
専攻ガイダンス	2	4	6	6	12	9	15
専攻決定の時期	4	0	9	5	16	9	23
専攻決定の方法	2	1	7	7	12	13	18
	35 (39.3%)	28 (31.5)	26				
	52 (58.4%)	15 (16.9)	22				
	39 (43.8%)	26 (29.2)	24				

生涯教育コース

入学年度	'92	'91	'90	'89	計		
専攻ガイダンス	8	4	6	1	6	3	5
専攻決定の時期	10	3	7	0	7	3	3
専攻決定の方法	10	2	6	1	8	0	6
	25 (62.5%)	10 (25.0%)	5				
	30 (75.0%)	7 (17.5%)	3				
	30 (75.0%)	4 (10.0%)	6				

生産科学課程

入学年度	'92	'91	'90	'89	計		
専攻ガイダンス	16	9	14	5	13	8	2
専攻決定の時期	19	6	15	4	14	6	3
専攻決定の方法	19	6	15	2	17	4	3
	58 (54.7%)	24 (22.6%)					
	62 (58.5%)	19 (17.9%)					
	64 (60.4%)	15 (14.2%)					

ここからはすでに専攻を決定している諸君に質問します。

C-3. 専攻を決定するために必要な知識を持って選択できたと思いますか。

入学年度	国際文化コース			生涯教育コース			生産科学課程		
	'92	'91	'90 '89 計	'92	'91	'90 '89 計	'92	'91	'90 '89 計
イ. 必要な知識を持って専攻を決めることができた。	*	5	10 9 24 (32.4%)	*	5	6 4 15 (55.6%)	*	8	9 6 23 (21.7%)
ロ. 専攻に関してはあまりよく知らなかった。	*	10	16 15 41 (55.4%)	*	1	4 2 7 (25.9%)	*	14	14 12 40 (37.7%)
ハ. その他	*	0	1 3 4 (5.4%)	*	1	2 0 3 (11.1%)	*	1	1 3 5 (4.7%)
無回答	*	14	0 1 5 (6.8%)	*	1	0 1 2 (7.4%)			

C-4. 専攻を決定するのに主として何を参考にしましたか。

入学年度	国際文化コース			生涯教育コース			生産科学課程		
	'92	'91	'90 '89 計	'92	'91	'90 '89 計	'92	'91	'90 '89 計
イ. 専攻ガイダンス。	*	2	2 2 6 (8.1%)	*	1	0 1 2 (7.4%)	*	0	2 6 8 (7.5%)
ロ. 自分の志望。	*	16	24 22 62 (83.8%)	*	8	9 5 22 (81.5%)	*	22	19 16 57 (53.8%)
ハ. 友人のアドバイス。	*	2	0 0 2 (2.7%)	*	-	- - -	*	0	1 1 2 (1.9%)
ニ. 先輩の助言。	*	4	1 1 6 (8.1%)	*	1	1 0 2 (7.4%)	*	3	1 0 4 (3.8%)
ホ. 教官からの誘い。	*	0	1 2 3 (4.1%)	*	-	- - -	*	0	1 1 2 (1.9%)
ヘ. その他	*	1	0 3 4 (5.4%)	*	0	3 1 4 (14.8%)	*	1	2 0 3 (2.8%)
無回答					0	0 1 1 (3.7%)			

C-5. 希望通りの専攻に入ることができましたか。その場合、専攻前の期待に比較して、現在どのように感じていますか。また、希望通りでなかった場合、希望していた専攻名を書き、現在持っている感想を書いて下さい。

イ. 希望通りの専攻に入り、

入学年度	国際文化コース			生涯教育コース			生産科学課程		
	'92	'91	'90 '89 計	'92	'91	'90 '89 計	'92	'91	'90 '89 計
イ-1 期待の通りであった。	*	4	4 15 23 (31.1%)	*	1	3 0 4 (14.8%)	*	3	7 8 18 (17.0%)
イ-2 ほは満足している。	*	6	16 8 30 (40.5%)	*	7	7 6 20 (74.1%)	*	16	13 12 41 (38.7%)
イ-3 期待とは異なる。(具体的に:)	*	4	4 0 8 (10.8%)	*	0	2 0 2 (7.4%)	*	1	4 1 6 (5.7%)

ロ. 希望とは違う。

入学年度	国際文化コース			生涯教育コース			生産科学課程		
	'92	'91	'90 '89 計	'92	'91	'90 '89 計	'92	'91	'90 '89 計
ロ-1 現在も希望していた専攻に未練を感じる。	*	1	1 1 3 (4.1%)	*	-	- - 0	*	1	0 0 1 (0.9%)
ロ-2 今の専攻に満足している。	*	1	1 2 4 (5.4%)	*	-	- - 0	*	0	0 0 0
ロ-3 その他	*	3	1 2 6 (8.1%)	*	-	- - 0	*	1	0 0 1 (0.9%)
無回答				*	0	0 1 1 (3.7%)			

〔D〕 勉学条件

D-1. 教室、演習室、図書館、コンピュータ等の教育施設、図書館の蔵書、あるいはそれらの利用等に関して、不便を感じることがありますか。

国際文化コース

入学年度	'92	'91	'90	'89	計	無回答
教室	1	9	14	16	40(51.9%)	35(45.5%)
演習室	4	12	19	22	57(77.0%)	15(20.3%)
図書館	5	13	15	21	54(64.3%)	28(33.3%)
図書館の蔵書	2	9	14	18	43(55.1%)	31(39.7%)
コンピュータ	6	9	16	17	49(67.1%)	16(21.9%)
その他	4	6	3	2	11(27.5%)	9(22.5%)
						20

生産教育コース

入学年度	'92	'91	'90	'89	計	無回答
教室	6	3	12	6	27(67.5%)	8(20.0%)
演習室	10	5	10	6	31(77.5%)	2(5.0%)
図書館	10	5	10	4	29(72.5%)	5(12.5%)
図書館の蔵書	7	4	7	3	21(52.5%)	11(27.5%)
コンピュータ	9	4	7	5	25(62.5%)	9(22.5%)
その他	8	3	2	3	16(40.0%)	2(5.0%)
						22

生産科学課程

入学年度	'92	'91	'90	'89	計	無回答
教室	7	14	15	16	52(49.1%)	32(30.2%)
演習室	12	18	17	17	64(60.4%)	11(10.4%)
図書館	14	15	17	18	64(60.4%)	17(16.0%)
図書館の蔵書	12	14	14	7	47(44.3%)	31(29.2%)
コンピュータ	6	16	9	11	42(39.6%)	47(44.3%)
その他	4	4	5	6	19(17.9%)	6(5.7%)

D-2. 卒端に係わる機器、設備、図書、雑誌、資料等について、不便に思うことはありませんか。あるいは、どの様なものが不足していると感じますか。(回答省略)

〔E〕大学進学目的、将来の進路

ここでは、少し一般的な質問をします。今までの大学生活を振り返ってみて、答えて下さい。

E-1. あなたは大学にどのようなイメージを持ち、何を期待して入学しましたか。その意味から考えて、期待通りであったと思いますか。

	入学年度		国際文化コース			生涯教育コース			生産科学課程							
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計	
イ. 期待通りであった。	1	2	8	11	22(27.8%)		3	2	5	6	16(40.0%)	4	8	11	6	29(27.4%)
ロ. 期待とは大分異なる。(具体的に：)	7	11	14	12	44(55.7%)		8	5	5	1	19(47.5%)	13	12	9	9	43(40.6%)
無回答	4	0	4	5	13(16.5%)		2	1	2	0	5(12.5%)					

E-2. 大学卒業後の進路に関して、教員免許状の取得を目指していますか。また、大学卒業後、どのような進路を目指そうとしていますか。4年生はすでに決まった進路について記入してください。

	入学年度	国際文化コース					生涯教育コース					生産科学課程				
		'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計
・教員免許状の取得を： イ. 目指している ロ. 考えていない 無回答		6	6	7	18	37(41.6%)	2	1	4	1	8(20.0%)	6	3	2	4	15(14.2%)
		7	11	20	8	46(51.7%)	10	7	8	4	29(72.5%)	13	20	22	14	69(65.1%)
		4	0	0	2	6(6.5%)	1	0	0	2	3(7.5%)					
・卒業後の進路	イ. 一般企業に就職すること（業種・職種：）	4	11	15	23	53(57.6%)	5	4	4	3	16(40.0%)	10	11	21	16	58(54.7%)
	ロ. 公務員（職種：）	6	9	6	1	22(23.9%)	3	1	7	4	15(37.5%)	5	5	3	2	15(14.2%)
	ハ. 教員	0	0	1	0	1(1.1%)	1	1	0	0	2(5.0%)	1	0	0	1	2(1.9%)
	ニ. 自営業（分野：）	0	0	0	0	0(0.0%)	0	0	0	0	0(0.0%)	1	0	0	1	2(1.9%)
	ホ. 大学院進学（分野：）	1	0	2	3	6(6.5%)	2	1	0	0	3(7.5%)	3	6	0	3	12(11.3%)
	ヘ. その他	0	1	2	2	5(5.4%)	1	1	0	0	2(5.0%)	1	3	0	0	4(3.8%)
	無回答	5	0	0	0	5(5.4%)	2	0	1	0	3(7.5%)					

E-3. 卒業後の進路との関係で、B課程の教育をどのように考えていますか。幾つでも選択して下さい。

入学年度	国際文化コース					生涯教育コース					生産科学課程				
	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計	'92	'91	'90	'89	計
イ. 教育内容が将来役に立つと考えている。	1	2	3	1	7(8.0%)	2	1	0	0	3(7.5%)	6	4	2	4	16(15.1%)
ロ. 直接役に立つということはないが、広い意味で有益である。	1	9	15	14	48(54.5%)	8	6	10	7	31(77.5%)	8	13	15	14	50(47.2%)
ハ. 就職に有利である。	0	0	0	2	2(2.3%)	1	0	0	0	1(2.5%)	2	4	0	3	9(8.5%)
ニ. 就職に不利である(どんな点が：)	1	10	6	1	18(20.5%)	2	0	1	0	3(7.5%)	4	5	10	1	20(18.9%)
ホ. どちらかと言うと役に立たず、無駄だと思う。	0	2	4	7	13(14.8%)	1	1	1	0	3(7.5%)	2	2	1	3	8(7.5%)
ヘ. その他						1	1	0	0	2(5.0%)	0	4	1	0	5(4.7%)
無回答						1	0	0	0	1(2.5%)					

〔F〕その他、学部およびB課程に関して要望があれば書いて下さい。(回答省略)